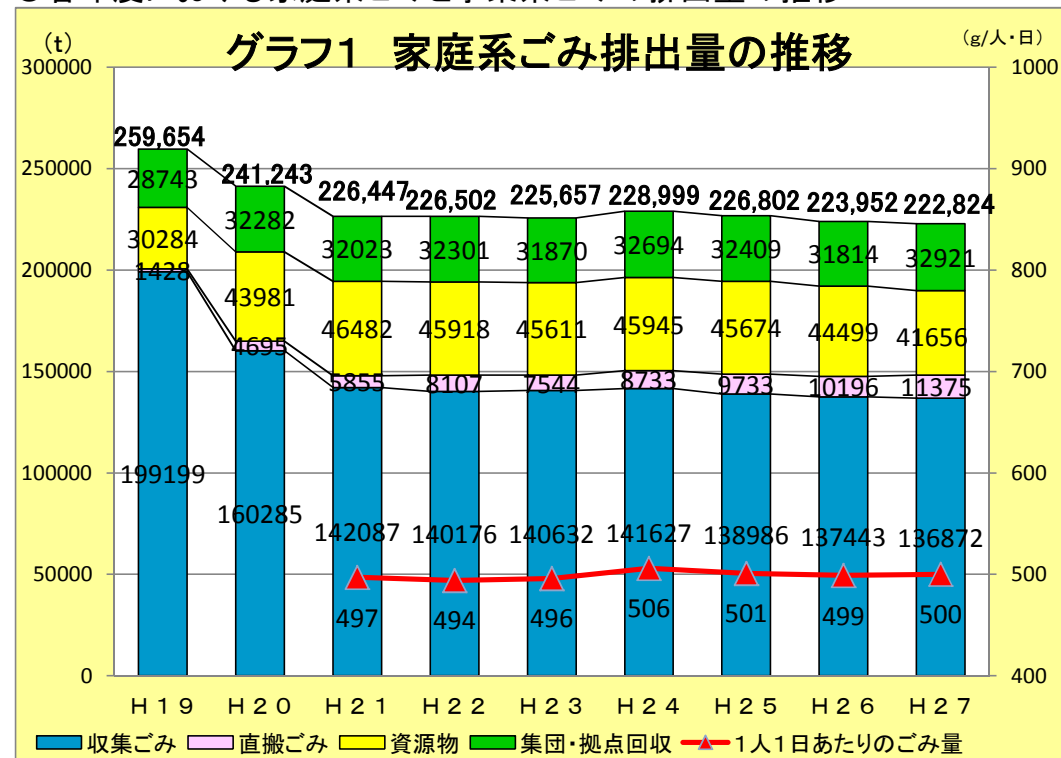
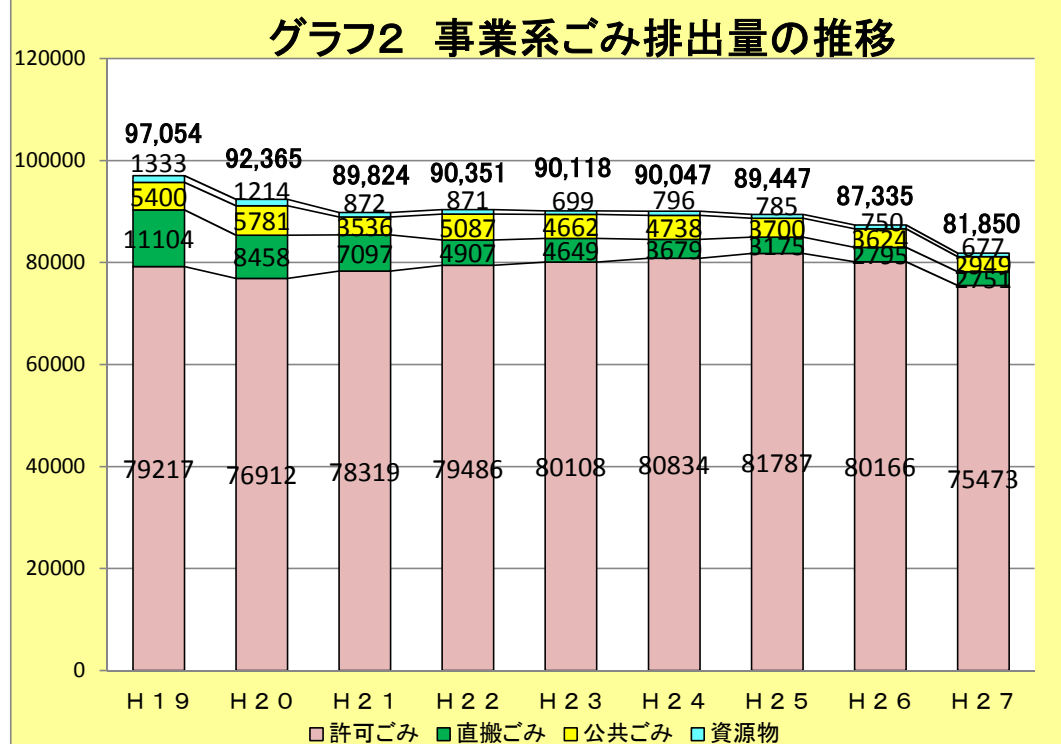


近年のごみ量の推移等について

●各年度における家庭系ごみと事業系ごみの排出量の推移

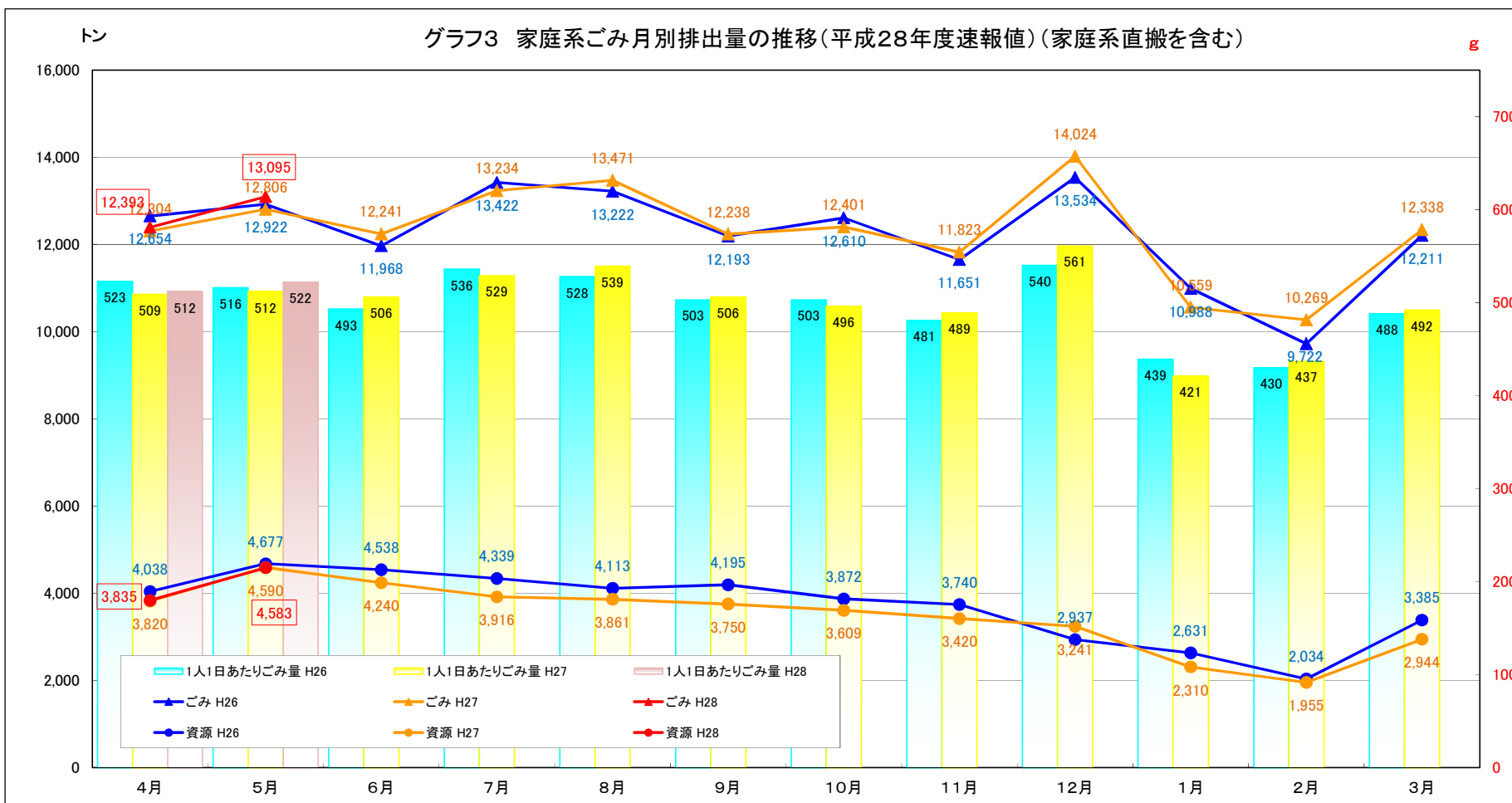


収集ごみ・・・燃やすごみ、燃やさないごみ、普通ごみ、粗大ごみ
 直搬ごみ・・・家庭系の処理施設への直接搬入ごみ
 資源物・・・家庭系収集資源物(プラマーク容器包装、ペットボトル、びん、缶、特定5品目、古紙類、枝葉・草)
 集団・拠点回収・・・集団資源回収量と拠点回収量の合計
 $1人1日あたりのごみ量 = (収集ごみ + 直搬ごみ(有料)) \div 人口(人) \div 年間日数(日)$
 ※直搬ごみを家庭系と事業系で分けて統計をとるようになったのは新制度開始以降



許可ごみ・・・一般廃棄物収集運搬業の許可業者が排出事業者から委託され搬入したごみ
 直搬ごみ・・・排出事業者が自ら処理施設へ搬入したごみ
 公共ごみ・・・側溝汚泥・不法投棄・動物の死体・ボランティア清掃など
 資源・・・食品(学校給食・事業系食品)残渣の飼料化・堆肥化及び公共施設から収集される資源物

●家庭系ごみ月別排出量の推移(平成28年度速報値)



●リサイクル率

平成27年度:27.9%(平成26年度:27.9%(人口50万人以上の都市中第2位)、平成25年度:27.2%(同2位))

【平成27年度家庭系ごみ量について】

- 収集ごみが前年度比で571t減(0.4%減)
 内訳
 ・燃やす(普通)ごみ・・・391t減少(0.3%減)
 ・燃やさないごみ・・・57t減少(1.5%減)
 ・粗大ごみ・・・123t減少(3.9%減)
 ※考えられる要因
 ⇒分別意識の向上
- 直接搬入ごみが前年度比で1,179t増加(11.6%増)
 ※考えられる要因
 ⇒継続搬入者(リピーター)の増加
- 集団・拠点回収が前年度比で1,107t増加(3.5%増)
 ・古紙類の集団回収・・・1,063t増加(3.6%増)
 ※考えられる要因
 ⇒秋葉区における集団資源回収モデル事業実施

- 資源物が前年比で2,843t減少(6.4%減)
 主な内訳
 ・プラマーク容器包装・・・135t減小(1.6%減)
 ・飲食用・化粧品びん・・・45t増加(0.7%増)
 ・飲食用缶・・・114t減少(5.0%減)
 ・古紙類・・・2,430t減少(27.4%減)
 ・枝葉・草・・・193t減少(1.2%減)
 ※考えられる要因
 ⇒プラマーク容器包装は容器自体の軽量化
 ⇒古紙類では秋葉区で集団資源回収モデル事業実施による減・・・1,760t減少
 ⇒枝葉・草は時期による増減あり
 ・H27.7月・・・10.6%減少
 ・H27.12月・・・76.9%増加
 ・H28.3月・・・32.1%減少

【平成27年度事業系ごみ量について】

- 許可搬入が前年度比で4,693t減少(5.9%減)
- 直接搬入が前年度比で44t減少(1.6%減)
 ※考えられる要因
 ⇒事業系ガイドラインの本格実施
 ⇒展開検査の強化による搬入規制の徹底

【リサイクル率について】

- リサイクル率は前年度と同率
 ※考えられる要因
 ⇒ごみ総排出量が減少したものの、資源化量も減少したため